

今年出店予定の夏フェスイベント

催事イベント開催日程	催事名	会場
7月19日(木)～22日(日)	バイヤーズマーケット	アクセスサツポロ (札幌市厚別区流通センター) 帯広競馬場
8月18日(土)～19日(日)	帯広BBマーケット	(帯広市西13条南9丁目) 江別とんでんファーム前広場
8月25日(土)～26日(日)	すこやか物産展	(江別市元野幌968-5)



お祭り出店今年も参加します  
(写真は過去の夏フェス出店風景)



**衛生基準最高A評価取得**  
**当社いずし製造工場**

当社(株)中井英策商店は、このほど所管の室蘭保健所から、食品衛生管理基準を定めたHACCP(通称・ハセツプ)の最高評価A評価を取得した。食品工場などの衛生基準のハセツプ取得は近く取得が義務付けられるのを前に当社では、早々に所管する室蘭保健所の指導の下、今回の評価取得にこぎ着けた。



当社(株)中井英策商店は、毎年夏恒例となった道内各地での夏イベントに今年も

出店参加する事が決まった。夏フェス第一弾は、七月十九日から四日間札幌市厚

イ菓子などを展示、ユー

**今年の夏フェス札幌、帯広、江別に出店**  
**いずし他菓子新製品も続々販売**

別区のアクセス札幌で開催される物産イベント「バイヤーズマーケット北海道二〇一八」に初出店する。このイベントは、北海道新聞社が主催して毎年行われているもので、北海道内各地の物産品が一同に会して、初日と二日目が商取引をメインにしたバイヤー商談会、週末の土日が一般消費者を対象としたユーザードейとし、市販を行うイベント。当社は、初めての出店となるが、いずしの他に当社製造の魚醬や昆布製品、パイ菓子などを展示、ユーザードейではお得な格安販売を実施する計画だ。一方、八月には二回の夏イベントに今年はお出店する予定だ。お盆明けの八月十八、十九の週末土日には、帯広市内の帯広競馬場で行われる物産市「帯広パンマーケット」に出店するのについて、翌週の土日八月二十五、二十六日には昨年からお出店している江別市内のトンデンファームさんで行われるイベント「すこやかフェア」に二日間出店する予定だ。

中井英策商店とお客様を結ぶコミュニティ新聞

# きんきん新聞

「きんきん新聞」第28号  
2018年(平成30年)6月25日発行  
発行:(株)中井英策商店  
☎(0142)24-2934  
メルアド:kinki@nakai-shop.com

# 今年もマツカワ漁好調スタート

## 当社王鰯いずしも仕込み始まる

かつては資源の枯渇から「幻の高級魚」と呼ばれたのがマツカワ、別名タカノハなどとも呼ばれる鰯だが、ここ数年

年ほど資源回復施策も功を奏して、漁獲量も順調な伸びを続けている。

今年も、初夏を迎えマツカワ漁は去年並に順調ぶりを見せており、安定した漁獲量が注目が一気に高まっている。

井英策商店でもこのマツカワを使った飯寿司「王鰯いずし」(マツカワいずし)の仕込みを開始した。

元々はこのマツカワ、東京銀座の一流料理店などで振る舞われるなどの高級素材だが、今年もこのマツカワのいずしを昨年を二割以上上回る数量の仕込みを行う計画で、期待のファンに応える方針だ。



当社マツカワいずし「王鰯いずし」

# マレーシアで初催事に挑戦

道主催北海道フェアをクアラルンプールで開催

当社(株)中井英策商店は、今年二月、道主催の海外イベント、東南アジアマレーシアでの「北海道フェア」に初参加、マレーシアの首都クアラルンプールで初めて行った物産展と商談会で貴重な体験をさせて頂きました。今回と次回に二回に分けて、マレーシアでのイベントの様をお伝えします。

## 当社魚醬に「美味しい」と好反応

このイベントは、道産品の海外輸出拡大を後押しする道の主催で行われたもので、経済発展著しい東南アジアの中のマレーシアの首都クアラルンプールで行われたもので、二月二日から四日までの三日間が同市内の巨大ショッピングモール、パブリカショッピングモールのセンター広場で一般消費者対象の販売フェアを行い、最終日の五日は会場を同市内中心部のビジネス街のビルの一角に移しての商談会が行われた。

当社としても、個人としても初めてのマレーシアで、「一体どんな国なんだろう?」「イスラム教徒七割という国民はどんな感じ?」と興味半分、不安半分だったが、実際行ってみると、空港から日本や先進国と何ら変わりのない、綺麗な近代的な施設が立ち並ぶ都市で、当初のイメージはすっかり消え去った。

そして、始まった北海道フェア、現地の通貨である「リンギット」(日本円のほぼ三分の一)の扱いに戸惑いながら、まず驚いたのが現地の方々の日本、そして北海道に対する好感感が肌で感じられるほどの親国であることだった。特に「北海道に対しては憧れが強く、北海道で作られている商品に対しての興味が非常に深い印象を受けた。公用語はマレー語だが、一般的には英語が主体、お客様の質問に、粗末な英語で死に答える私があった。

出拡大を後押しする道の主催で行われたもので、経済発展著しい東南アジアの中のマレーシアの首都クアラルンプールで行われたもので、二月二日から四日までの三日間が同市内の巨大ショッピングモール、パブリカショッピングモールのセンター広場で一般消費者対象の販売フェアを行い、最終日の五日は会場を同市内中心部のビジネス街のビルの一角に移しての商談会が行われた。

現地の天候と気温は、結論から言うと思ったほど蒸し暑くは無く、気温三二度とは言いながら、意外と過ごし易く、二月だからか、日陰に入るとむしろ爽やかな風が吹き抜けるといった初夏の北海道と言った天候が続いたのも好印象の一つだった。

当社は、このフェアでは、物流の問題もあって主力商品の飯寿司は持つて行かず、昆布のおちよこやキンキの魚醬、菓子類などを販売したが、印象に残ったのは、ナンブラーが有名な魚醬消費国タイの隣国という点もあり、当社のきんきの魚醬「きんきの露」が好評で、持参した魚醬完売となった。(次号に続く)



着物イベント参加の当社及川代表



お祭り広場でブース出店



中井英策商店社長の及川昌弘です



JR 仙山線



イベント会場にも利用される仙台駅構内



山寺駅



山寺駅ホームにて



登ると見える山寺外観

# 社長の独り言

## 思い出旅日記④鉄道編

### 大都会から一転里山へ：仙山線(宮城→山形県)

私、中井英策商店社長の及川昌弘が書き綴る好評?も頂いております(という噂の)思い出鉄道旅日記の4回目は、前回は続いて東北編です。

実は私の実の父親(既に故人)は岩手県、まだ健在の母親は山形県生まれで、その間に生まれた私は純粋な東北人の血を引いております。

そんな訳でもないですが、今回も東北、社の都仙台から隣県山形県の県庁所在地、山形を結ぶ路線距離五八〇キロ、所要時間およそ一時間半の比較的短い路線ですが、私ガ旅をして印象に残っている鉄道旅でしたので、ご紹介したいと思います。

私がこの路線に乗ったのは比較的最近で、六年程前の丁度三月の終わり。

商談会に参加した仙台を離れ、翌日は山形県の日本海側の町、酒田市に向かうために乗った路線で、後から聞いた話では「仙台から酒田に向かうには、バスが早くて安い」とのこと、知らずに迷わず鉄道に乗り込んだ私は、およそ八時間の鉄道の旅をあることになった。

それでも、楽しみだったのは初めて行くあの有名な「山寺」、ここに行くためにこの仙山線に乗り込んだと言っても過言ではなかった。

午前八時十五分仙台発の快速山形行の電車に乗り込んだ。さすがに平日のこの時間、中高生や大学生などの通学生が多く乗り込んできた。そして出発、さすがに東北最大の政令指定都市仙台は大都会、しかし綺麗な街並みは洗練されていて私は大好きな街並みだ。やがて、電車は山道にさしかかり、郊外へ、大学生が大勢乗り降りしてきた。見ると「東北福祉大前」の駅。

そして電車は、それまでの都会の街並みが一気にローカルな雰囲気へ様変わりする。でも里山の果物が獲れるのとなかな町です。そんな「愛子」駅を過ぎると、正に東北の田舎風景が車窓に広がるのとなかなムードになってきた。

登りたいのだが、次の電車まであと三〇分弱ではさすがに戻って来れないと判断、「今回は必ず上るぞ」と誓い、渠の敬退となった。

ちなみに、この山寺、正式には「宝珠山立石寺」といい、西暦八六〇年清和天皇の勅願によって慈覺大師が開いた天台宗のお寺とのこと。(ちなみにあれから六年、私はまだこの山寺に登ってません)

折角なので、松尾芭蕉がここで詠んだという「閑さや、岩にしみ入る蟬の声」という一句が記されたハンカチをお土産に購入して再び電車に乗り込んだ。

次の停車駅は「高瀬」ここは、後にスタジオジブリの映画「おもひこぼろぼろ」の舞台となったところらしい。

やがて電車は、山間部を抜けて山形盆地へ入って行く。ここまで来ると、目立つのは果樹園の看板だ。「サクランボ狩り出来ます」などの看板が見えてくる。

山形と言えば果物、「そう言えばおふくろの山形の親せきから良くサクランボや柿、梨などの果物が送られてきたなあ・・・」と思い出にほふけいながら、やがて電車は山形県の県庁所在地山形駅に降り込んだ。

折角だから駅前位の空気を吸いたいなあ、と思ったが夕方までには酒田に到着しなければならぬ。直ぐに乗り換えの新庄行の普通列車に乗り込んだ。

山形県と秋田県の県境に位置する酒田市への鉄道旅は、まだまだ長いとはこの時初めて知ったのです。やがてお尻と腰が痛くなって来ますが、この時はまだそんなこと知る由もなかった・・・

この続きは、次回にお伝えします。

ところで私の母親(しつこいようですが、84歳まだ元気です)は、ここから向かう

目的地、山形県酒田市の隣町、遊佐町のお出身で、今でも里山の果物が獲れるのとなかな町です。そんな「愛子」駅を過ぎると、正に東北の田舎風景が美味しいしポートも次回でお届けします。



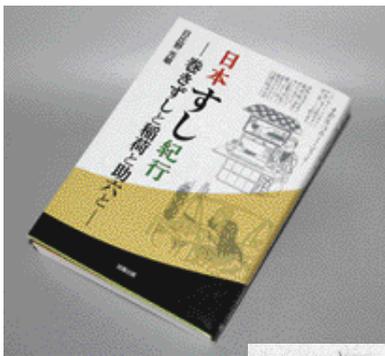
山寺頂上から眺める JR 仙山線(中央)

車内を見ると、それまでの喧騒から打って変って、乗客もまはら、静かな車内に変っていた。

そして、陸前白沢から熊ヶ根駅の間に、マニアの間では超有名ならしい名物鉄橋「熊ヶ根鉄橋」が見えてきた(らしい)。そんなことは露知らず、私は近づいている「山寺」のことはかり気になっていて、あっかい車窓からの景色をただポーンと眺めていただけで、思わず「ああ、失敗した」と心の中で叫んでいた。

そして、電車は「おもしろやま高原」という面白い駅名の駅を過ぎ、そして念願の「山寺」へ到着、躊躇あることなく途中下車した。

さすがに、山寺駅前には観光地の風情、情緒ある旅館やお食事処、土産店などが並ぶが、規模は小さく、喧騒もそれほどではない。やがて歩いて10分ほどで山寺「登山口」へ到着。「待てよ・・・登山口?」さすがに、山寺、普通のお寺ではない。



我が国唯一の寿司文化研究博士で、当社顧問の日比野光敏先生の新しい著書「日本すし紀行―巻きずしと稲荷と助六―」がこのほど旭屋出版から出版された。

日比野先生は、当社および当社主宰の「いずし食文化をつなぐ会」の顧問を務められている我が国唯一の寿司研究博士で、これまでも多くの著書を出版されているが、今回の新刊は、北海道から沖縄まで日本各地の巻きずしと稲荷ずしの歴史やそれにまつわる地域文化などを紹介する本で、B5版250ページにわたっている。

当社顧問で我が国唯一のすし研究博士  
日比野光敏先生

# 「日本すし紀行巻きずしと稲荷と助六」発刊

日比野先生は著書の中で「巻きずしと稲荷は私の専門外で特別な研究をしてこなかったが、いつかは誰かがするだろうと思っていたのに誰も発表する気配が無い。ならば私がまとめよう・・・」と言ふことになった」と語っている。

定価本体二八〇〇円+税。



写真右横が日比野光敏先生、写真上が日比野先生の新著書

## キンキのがりんとう新登場

キンキの魚醬で味付けシリーズ

当社(株)中井英策商店は、当社の人気魚醬「キンキの露」で味付けした、深みのある独特な味わいが特徴のかりんとう「キンキのかりんとう」を新発売した。



この商品は、当社が製造する魚醬シリーズ「キンキの露」の認知度アップを目的に、

黒糖風味をベースのかりんとうに、当社の魚醬「キンキの露」で、甘いだけじゃない、独特の味わいに味付けられた、ユニークなかりんとうで、可愛らしいカップに入った容器もユニーク。小売価格は税込二八〇円で、当社通販のほか、道内有名お土産店での販売も開始した。

## 6枚入り HALF パック発売

大人気のビーフパイ、ホタテパイ

当社(株)中井英策商店は、当社菓子部門のヒット商品「大人のビーフパイ」とホタテを使ったパイ「スキヤロップ(ホタテ)パイ」の6枚入りの HALF サイズを新発売した。

この商品は、消費者から要望の強かった「自家消費用のお手頃サイズが欲しい」との声に応えたもので、ヒット商品の「大人のビーフパイ」が従来の箱入りサイズの半分6枚が入った「HALF サイズ」と、スキヤロップ(ホタテ)パイの、プレーン、トマトサラダ味、和風カレー味の三種類が各2枚づつ、合計6枚が入った「アソートタイプ」を発売した。



価格は、大人のビーフパイ・ HALF サイズが税込六〇〇円、スキヤロップ(ホタテ)パイ・アソートタイプが、税込五五〇円。

## いずし文化 つなぐ会 今年度は充電期間とさせていただきます

昨年、当社が設立致しました任意団体「いずし食文化をつなぐ会」の初年度が間もなく終わり、二年目に入らせて頂く時期を迎えました。

初年度は、お陰様を持ちまして大成功に終わりました初のイベント「いずし大試食懇親会」を始め、数々のイベントを開催する事が出来ましたことを会員様始め、多くの皆様から感謝申し上げます。

さて、二年目の今年ですが、昨年大きな事業を相次いで行った事もあり、事業継続の予算が枯渇する事態となつて

このため、会の活動は今年度は充電期間とさせていただきます。新たな年に向けて更に飛躍する為の準備期間とさせていただきます。いと考えております。

つきましては、今年度は会の活動はお休みさせていただきます。会費等のご請求もお休みさせていただきます。何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

会員様、お得意先様の益々のご健勝をご祈念申し上げます。いずし食文化をつなぐ会 代表 及川昌弘

新製品・新企画・キャンペーンご案内